

リフレッシュ キャンプ

■ 事業のねらい

自然の中での活動をとおして、仲間の大切さや物事を達成する喜びを感じることによって、自分が変わるためのきっかけづくりとする。



- 実施日 平成23年9月16日(金)～18日(日) 2泊3日
- 参加対象 心に悩みを抱えている小学3年生～高校生及びその指導者 20名
- 参加実績 参加者：13名
 中1＝1名、中2＝3名、中3＝4名
 高1＝0名、高2＝0名、高3＝1名
 男子＝4名、女子＝5名、指導者4名
- 備考 運営協力者：学生ボランティア5名
 活動場所：ネイパル森及び東大沼キャンプ場
 協力：北海道フリースクール等ネットワーク
 苫小牧市教育委員会適応指導学級「あおば学級」

1 事業実施の背景

文部科学省では、不登校児童生徒の定義を病気や経済的理由を除き年間30日以上欠席が認められ、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因により、登校しないあるいはしたくともできない状況にある者としている。平成22年度、北海道の不登校児童生徒数は、4,121人、高等学校では853人となっており、その数値は依然として高く、教育上大きな課題となっている。

不登校対応として「適応指導教室」の整備推進やフリースクール支援、さらには、実態に応じた効果的な活動プログラムの開発が求められている。そのため、今回は、北海道フリースクール等ネットワークや苫小牧市適応指導学級と連携を図り、自然体験活動を主体に自主性、協調性、忍耐力など「生きる力」を培う取組を行った。

2 プログラムデザイン

受付 9月16日(金)15:30 解散 9月18日(日) 16:00

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23							
16日(金)					バス移動 (札幌→ネイパル森へ)						開会式 ゲーム	明日から の活動説明等	夕食	自由時間 入浴	振り返り 準備	就寝 (ネイパル 宿泊)									
17日(土)	起床	朝食	清掃	準備	のんびりゆったり自然体験 (東大沼キャンプ場)													就寝 (テント泊)							
					・サイクリング <昼食> ・ネーチャーゲーム			・カヌー			・水辺遊び			・野外炊飯 <夕食>			・テント設営			・星座観察			・ボンファイヤー		
18日(日)	起床	・野外炊飯 <朝食>			移振閉 動返会 り式	バス移動 (ネイパル森→札幌へ) ※弁当配付 解散																			
		・テント撤収																							

■ アクティビティについて



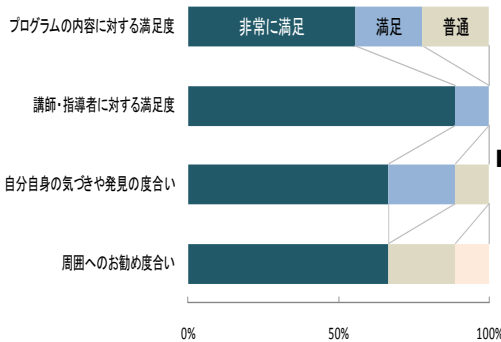
■ 意図

- プログラム全体では、人と巡り会うチャンス、何事にも挑戦できるチャレンジ、自分の殻を破ることができるチェンジを合い言葉に「3つのC」をキーワードに事業展開を図った。
- 大自然の中での活動をとおして、自然と向き合い、自然の素晴らしさを感じ取るとともに、自分が生きている、生かされていることを実感できるようにする。
- 自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し行動することで「生きる力」を培うようにした。
- 3日間の活動をとおして、「自分と仲間」「本当の自分」について見つめ、他人を思いやる心や仲間と協力することの大切さについて気付く取組にした。

■ 留意事項

- 都市部からの参加者がほとんどのため、自然体験を重視したプログラム構成にした。
- 野外活動が中心で、危険を伴うプログラムが多いことから、参加者が安全に活動できるよう危機管理の徹底を図った。

3 活動の様子



4 事業評価



5 まとめ



■ 当日の様子

初日は、職員が参加者の心と身体の緊張をほぐすために、アイスブレイクを実施。夕食後は、オリエンテーションを行い事業についての説明を行うとともに「明日への準備」として、翌日から行われる東大沼でのキャンプ活動に必要な道具を準備しトラックへの積み込みを行った。就寝前には、今日のふりかえりと明日のキャンプ活動についての安全確認や持ち物等についての最終確認を行った。

二日目は、「のんびりゆったり自然体験」を実施。朝から大雨警報が発令されるあいにくの天気になったが、1時間後にバスでキャンプ場まで移動。到着後、自分たちの生活拠点になるテントを設営。昼食後は、雨の中、10人乗りのカヌー体験にチャレンジ。大沼に繰り出し、班で力を合わせ漕いだ。途中、小さな島をめぐり、景観を楽しみながらカヌーの醍醐味を味わった。腕が痛いなど辛いこともあったが、仲間と声を出し励まし合いながら、4kmを完漕した。夕方からは、野外炊事の定番、カレーライス作りに挑戦。参加者は炭おこし、材料切り、ご飯を炊き担当のグループに分かれ作業を行った。どのグループもおかわりをするなど、おいしく食べた。夕食後は、楽しみにしていたナイトウォークが雨のため中止となったため、大型テントの中で火を囲みながらボンファイヤーを実施。ゲームをしたり、会話を楽しんだりしながら交流を深めた。

最終日は、朝6時に起床。朝食はパンにアルミを巻き牛乳パックの中に入れコンロで焼くホットドックとポタージュスープを作った。その後、雨が続く中、テントの撤収作業を全員で力を合わせて行った。ネイパルまでの移動は、二日目にできなかった25kmのサイクリングを実施。大沼を一周した後、狭い林道や獣道を走りながら施設を目指した。途中、ぬかるんだ悪路もあり、参加者は、全身汚れながらも全員、無事走破した。閉会式では、思い思いの感想を述べ別れを惜しんでいた。

■ 参加者の声

- 25kmのサイクリングをして「すごく辛かったけど、周りの人が励ましてくれたので頑張ることができた」「完走できたことで自分に自信を持つことができた」
- 雨の中の野外生活だったが、「辛くても頑張れば頑張れることを知った」
- カヌーやサイクリングなど普段できない自然体験ができて良かった。また、3日間をとおして仲間の絆も深まった。

■ 評価方法・重点

「IKR調査」を実施。「自然への関心」「依存」「思いやり」「積極性」に重点を置いた。

■ 参加者の変容【IKR調査結果】

「自然への関心」では事前、事後とも大きな数値であった。また、事後調査から、「非依存」が0.8ポイント、「積極性」「現実否定」「視野・判断」が0.7ポイントの上昇数値が見られた。

■ 結果の分析・考察

事前と事後の調査を比較すると、「非依存」「積極性」において、変化が見られた。理由は、厳しい気象条件下の中での野外活動から、積極的に自分が動かなければならない状況になり、主体的な行動が求められたためと考える。

■ 成果

- 今回の事業は、のんびりゆったりした自然体験を中心にプログラミングをしたが、暴風雨の中での野外活動やテント泊活動になったことから、非常に冒険性の高い活動になった。そのため、参加者は、何事も自分でやらなければならないことから精神的に活動し、充実感や達成感を味わうことができた。
- 参加者は、普段、自然に関わる機会が少ないことから、この事業をとおして、自然の良さや新鮮な感覚を体験したことにより自然に対する興味、関心を持つことができた。
- テント活動やボンファイヤー、カヌーなど、仲間と協力する活動が多かったことから、他者を認める心や思いやりの心を培うことができた。

■ 課題・今後の方向性

- 今までは、フリースクールだけの参加であったが、今回は適応指導教室の参加もあったことから、今までと違う人間関係を構築することができた。今後は、もっと広域的に他の団体と連携した事業を行っていきたい。
- 雨が降ったことで、参加者同士が交流する時間が確保され、仲間同士の絆を深めるには有効的であった。今後は意図的にゆとりのある時間を設定していきたい。

